

セッション 1

拾い集める声、姿

座長

村本 邦子 | 立命館大学 |



「証言から女性の歴史を紡ぐ」

松本 周子 | 水俣市女性相談支援員 |



「当事者が当事者に聴くということ」

杉本 肇 | 水俣病語り部の会 |



「ジャーナリズムとアート、被写体の尊厳」

アイリーン・美緒子・スミス | アイリーン・アーカイブ |

セッション 2

水俣の展示 —観せる、魅せる—

座長

原田 利恵 | 国立水俣病総合研究センター |



「フィールドワークを展示する
—水俣病を伝える活動の意義と課題」

平井 京之介 | 国立民俗学博物館 |



「水俣をアートとして展示する」

楠本 智郎 | つなぎ美術館 |



「プロセスを展示する
—水俣病アーカイブズと複数の旅の経路」

香室 結美 | 熊本大学文書館 |

セッション 3

水俣病の医学・保健研究と アーカイブズ

座長

廣川 和花 | 専修大学 |



「メチル水銀の胎児期曝露影響」

坂本 峰至 | 国立水俣病総合研究センター |



「水俣病被害地域における異常妊娠の研究」

板井 八重子 | くわみず病院 |



「慢性期水俣病患者の病型別ADLの経年変化解析」

寶来 佐和子 | 国立水俣病総合研究センター |

セッション 4

資料を開く、活かす

座長

林 美帆 | 岡山理科大学 |



「水俣に所在する国立アーカイブズの意義と役割」

原田 利恵 | 国立水俣病総合研究センター |



「研究・教育・メディアにおける相思社資料の活用」

小泉 初恵 | 水俣病センター相思社 |



「揺れる水俣のなかでアーカイブする意味の再考」

井上 ゆかり | 熊本学園大学 |



「チッソ関連資料と科学技術と企業倫理」

矢作 正 | 「技術と社会」資料館 |